

桃山学院大学と和泉市との連携事業 結果一覧表(平成30年度)

(平成31年3月末日現在)

No.	事業名	和泉市担当	桃山学院大学担当	連携事業の結果	事業効果・成果	今後の課題等
1	和泉ボランティア・市民活動センター「アイ・あいロビー」との連携事業(子育て世代応援「ももやまキッズランド」)	市長公室 公民協働推進室 公民協働推進担当	ボランティア活動支援室	●アイ・あいロビーとコミュニティカフェオアシス及び学生が協働し、子育て世代の応援企画として「ももやまキッズランド」をアイ・あいロビーにおいて4月、6月、9月、12月、2月の計5回開催した。 参加した親子と学生によるプラ板づくりやスライム作り、手遊び、紙芝居、お菓子作りなど、様々なイベントを通じて一緒に楽しむことで地域のつながりをつくり、コミュニティの活性化につながる事業を実施した。	●普段交流することが少ない学生と協働することで新たなつながりやコミュニティが生まれ、アイ・あいロビーの周知、活性化につながっている。	—
2	防犯ボランティア「桃パト」	市長公室 公民協働推進室 危機管理担当	学生支援課	●学生が大阪府警本部、和泉警察署、和泉市と連携し、青色防犯パトロールカーによる見守り活動を中心に実施した。 平成30年 4月20日 青パト合同パトロール (久保惣記念美術館駐車場) 平成30年10月19日 青パト合同パトロール (久保惣記念美術館駐車場) 平成30年11月 4日 和泉市総合防災訓練 (桃山学院大学) 平成31年 1月 7日 サイバー防犯ボランティア説明会 (桃山学院大学) 平成31年 2月12日 防犯クロスロード教室 (緑ヶ丘小学校) 平成31年 2月14日 防犯クロスロード教室 (緑ヶ丘小学校) 平成31年 2月19日 防犯クロスロード教室 (緑ヶ丘小学校) 他にも地元のいずみ緑ヶ丘自治会と合同で、緑ヶ丘小学校の下校時見守り活動(週4~5回)や同自治会の夏祭り、防災訓練にも参加した。	●ボランティア活動が活性化し、地域の安全・安心感の醸成に寄与している。	○防犯を中心としたボランティア活動の更なる拡大と活発化。 ○ボランティア団体としての組織整備。 ○後継者の確保。
3	法職オリエンテーション	市長公室 人事課	法学部	●法学部学生を対象に、学習意欲の向上を図り、和泉市への関心や市政への参加意欲を高めるとともに、将来の就職先として和泉市職員の志望者数の増加を図るため、市長自ら大学へ出向き、市役所の仕事や和泉市について講義を実施した。	●将来の就職先として和泉市を希望し、新規採用試験に申し込みいただいている。	—
4	和泉市交換学生派遣・受入事業(ブルーミントン市)	人権・男女参画室 人権国際担当	国際センター	●姉妹都市・米国ブルーミントン市への交換学生派遣事業の参加募集にあたり、平成30年度は推薦枠を廃止したが、一般募集の周知について協力を依頼した。 【和泉市、和泉市国際交流協会共催】	●平成30年度は一般募集での応募はなかったが、令和2年度からは学生に研修の企画に携わってもらい「国際交流リーダー」としての推薦枠(1名)を設けることとなった。	—
5	公共サービスのイノベーション人材育成事業	環境産業部 市民室 出張所担当	経営学部 経営学科	●市役所の窓口サービスのような公共サービスをより良くするための調査・提案活動をゼミの一環で行った。学生による現地調査の結果を踏まえ、下記の改善案に取り組んだ。 時間外業務チラシの作成 時間外業務(午後5時15分~午後8時)及び日曜開庁業務を周知するためのチラシの作成を行った。既存のチラシを基に、誰もが見やすいチラシにすることを目的にルビやQRコードの挿入、誰もが理解できるような文言の変更等、アイデアを出しながら作成した。作成したものは窓口で配布し、活用している。	●ルビやQRコード、カットの挿入等、学生の柔軟な発想を職員が共有することができた。チラシについては、既存のチラシと比べ、余白が多くなり見やすくなったという声もいただいている。	○業務内容説明の時間が短く、十分に理解できていなかったため、業務改善するための課題を学生と共有できなかった。今後は実際に業務を体験する等現場の時間を確保することが必要と考える。
6	地域の魅力・顔づくりプロジェクト<和泉中央>	環境産業部 商工労働室 商工推進担当	社会学部 リーダー育成プロジェクト	●地域の魅力・顔づくりプロジェクト<和泉中央>推進協議会として、和泉中央駅周辺の活性化を図るため、下記事業を実施した。 平成30年6月6日 花の植替え作業(春の一斉美化活動は、雨天により中止) 平成30年10月15日 桃山学院大学との連携による「おえかきまつり」開催 平成30年12月6日 花の植替え作業(秋の一斉美化活動は、雨天により中止) 平成30年11月10日~2月14日 イルミネーション点灯	●鉄道・バス事業者、商店街、学校など地域の多様な関係者と行政が協働して、魅力ある和泉中央駅周辺の空間を創造し、まちの活性化を図ることができた。	—
7	地域ビジネス実践	環境産業部 商工労働室 商工推進担当	経営学部 経営学科	●昨年度までいずみパールを題材とした授業にアドバイザーとして参加していたが、平成30年度は実施していない。	—	—
8	MOMOYAMAエクステンション・カレッジ	環境産業部 商工労働室 商工推進担当	エクステンション・センター	●市と大学の連携事業として、平成29年度まで実施してきたMOMOYAMAエクステンション・カレッジを見直し、令和元年度以降に実施する内容の検討を行った。	—	—

桃山学院大学と和泉市との連携事業 結果一覧表(平成30年度)

(平成31年3月末日現在)

No.	事業名	和泉市 担当	桃山学院大学 担当	連携事業の結果	事業効果・成果	今後の課題等
9	和泉市地域福祉総合相談員配置促進事業 (CSW(コミュニティソーシャルワーカー)へのスーパーバイズ)	生きがい健康部 福祉総務課	社会学部 社会福祉学科	<p>①活動の可視化 ・ホームページのマニュアル作成・管理 ・プレゼンテーション活動先の選定や企画・勉強会の調整、CSWチラシ設置状況とりまとめ</p> <p>②CSWとしての質の向上 ・分類シートの情報集約・事例検討の実施・新人CSWフォローについて</p> <p>③社会的居場所づくり ・個別ケースの進捗確認・イベントの企画、情報整理・スーパーバイズを含めた先生との連絡調整など</p> <p>④報告書について ・チラシ、冊子版、概要版、全体版の検討</p> <p>●上記内容につき、全4回にわたり、検討を行った。 第1回(平成30年7月25日) ①ホームページの紹介、レイアウト作成やコメントの修正を検討 ・昨年度の活動と今年度の目標について ・くらしサポートセンターとの連携の課題について ・社協との役割分担について ②分類シートの活用、分析や課題整理方法について ③社会的居場所づくりプロジェクトについて 第2回(平成30年9月19日) ①ホームページ掲載内容より、CSWの活動の現状報告と今後の各機関との継続的な連携について ②実施状況の報告と、今後の大学との連携について 第3回(平成30年12月19日) ①障がいの疑いのある方への支援、CSWの役割や発信すべきことについて ②11月のスポーツ大会の振り返りを行った 第4回(平成31年2月18日) ①ホームページのトップページの修正と、4月にホームページ全体をリニューアルする件について ②社会資源情報シートの整理・活用方法について 居場所づくりプロジェクトの目標なども含め整理した</p>	<p>●会議では、ホームページの内容修正に対し具体的に意見交換し、修正を行うことで、CSWのスキルアップにつながった。 また、社会的居場所づくりプロジェクトに対しても、周知の方法や社会資源情報シートに対するアドバイスをいただき、知識の共有、学びの場となった。</p>	—
10	みんなで取り組む地域づくり協議会	生きがい健康部 福祉総務課	社会学部 社会福祉学科	<p>●住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業の最終年度となる平成30年度は事業3年間の成果をまとめた事業報告書の内容検討や事業終了後の取組の進め方について、協議会で検討を行った。</p> <p>第1回協議会(平成30年4月27日) 第2回協議会(平成30年9月3日) 第3回協議会(平成30年12月26日) 第4回協議会(平成31年3月26日)</p>	<p>●これまでの協議会での団体の立ち上げや運営に係る意見を抽出し、本事業を通して見えてきた活動を始める際のポイントをまとめることができた。 事業終了後も団体が集まる機会を提供し、情報やノウハウを共有することで既存団体の活動の充実を図る。また、新たに活動を始めようとする団体の立ち上げに本事業のモデル団体が関わることで活動開始までの支援を行っていく。</p>	<p>○事業終了後も市が事務局として招集や場所の提供を行うことになったが、いずれは各団体に招集や場所の確保をしてもらえるように促す必要がある。</p>
11	社会的居場所づくりプロジェクト	生きがい健康部 福祉総務課	社会学部 社会福祉学科	<p>●社会的居場所づくりプロジェクトとして、社会的に孤立している人(ひきこもり等)を対象に、CSWと、社会学部社会福祉学科の教授と学生が協働し、以下のとおりプロジェクトを実施した。</p> <p>第1回ゲーム大会<総合福祉会館>(平成30年6月29日) ・全員で自己紹介し、風船バレー、お玉でリレーを行なった。 ・各々、DS、オセロ、トランプ、ウノを行なった。</p> <p>第1回女子会<桃山学院大学 マーガレット館>(平成30年9月13日) ・人造真珠を使ったアクセサリー作り ・人造真珠を使ったアクセサリー作り</p> <p>第2回女子会<桃山学院大学>(平成30年10月16日) ・人造真珠を使ったアクセサリー作り</p> <p>第3回女子会<コミュニティカフェオアシス>(平成30年11月20日) ・人造真珠を使ったアクセサリー作り</p> <p>スポーツ大会<桃山学院大学 体育館>(平成30年11月8日) ・ボールを回しながらランダムに自己紹介 ・3チームに分かれ、ドッジボール ・全員で円陣バレー</p> <p>第4回女子会<コミュニティカフェオアシス>(平成30年12月18日) ・参加者全員で買い物に行き、各々好きな材料を購入後、人造真珠を使ったアクセサリー作り</p> <p>第5回女子会<コミュニティカフェオアシス>(平成31年1月15日) ・前回のアクセサリー作りの続き</p> <p>たこ焼き・カステラパーティ<コミュニティカフェオアシス>(平成31年3月15日) ・女性・男性参加者ごとにテーブルに分かれたたこ焼き・カステラ作り</p>	<p>●学生との関わりを通して、対象者の性格に配慮し接したことで、最初は戸惑っていた対象者の様子も活動を重ねるごとに、関係性が深まり、人との関わりや活動に対し積極的に関わる様子が見受けられた。一人ひとりに丁寧に寄り添った支援により、少しずつ周囲との関係性を獲得してきている。</p>	—
12	消費者被害防止事業	生きがい健康部 福祉総務課	学生支援課	<p>●学生が消費者被害に陥ることを未然に防止することを目的として、市と大学でデザインを考えた消費者被害防止啓発チラシ「マルチ商法にご用心」を学生支援課の窓口で配布した。</p>	<p>●学生が陥りやすい消費者トラブルの注意喚起を行い、被害の未然防止に役立てた。</p>	<p>○相談員が講座を行うことやチラシの配布だけではなく、大学が全学生へ消費者教育を行うことができるよう、市として支援を行う必要がある。(消費者教育の推進に関する法律第12条)</p>

桃山学院大学と和泉市との連携事業 結果一覧表(平成30年度)

(平成31年3月末日現在)

No.	事業名	和泉市担当	桃山学院大学担当	連携事業の結果	事業効果・成果	今後の課題等
13	消費者教育事業	生きがい健康部 福祉総務課	経済学部 経済学科	<p>●学生に対して消費者被害の現状と若者が陥りやすい消費者被害の未然防止をはじめ、自立した消費者を育成するため、消費生活相談員を派遣し講座を行った。</p> <p>日時：平成30年7月9日(月) 13時20分～14時50分 学部：経済学部 テーマ：「だまされないで悪質商法(若者向け)」 参加者：経済学部学生 160名</p> <p>日時：平成30年12月20日(木) 11時00分～12時30分 学部：経済学部 テーマ：「だまされないで悪質商法(若者向け)」 参加者：経済学部学生 100名</p>	●民法の改正により令和4年度から成年年齢が18歳に引き下げられることもあり、若者の消費者被害防止と消費者問題・契約について講演を行うことで、より学生の認識を深めることができた。	○若者への消費者問題に関する啓発は重要であり、引き続き連携の取り組みが求められる。
14	認知症地域で支え“愛”事業 (認知症サポーター養成講座・徘徊模擬訓練・認知症カフェ・認知症初期集中支援事業等)	生きがい健康部 高齢介護室 高齢支援担当	社会学部 社会福祉学科	●平成30年度は、講座に講師として依頼することはなかったが、認知症事業(若年性認知症の家族会、認知症ケアバス作成など)について、随時相談させていただいた。また、認知症まちづくり連絡会、認知症初期集中検討委員会に、委員として出席をいただいた。	●専門的知識や経験から、事業内容へのアドバイスをいただいた。	—
15	教育・文化・スポーツの発展と振興に関する事業	学校教育部 指導室	教育支援室	●春季(5月)と秋季(10月)に大学でガイダンスを実施し、学生の希望や学校側の条件など、双方の調整や確認を行った。その後、学生が市内の幼稚園や小中学校において、学習や運動の補助、支援が必要な児童へのサポートなど、様々な教育活動にあたった。平成30年度は6名の学生の参加があり、学生は当該活動が学外研修として単位認定される。	●大学生が授業中や休み時間、放課後等のさまざまな時間に子どもたちと多く関わることで、子どもたちは楽しみや安心感を得られ、充実した幼稚園・学校生活へとつながったようである。また、学習の準備に時間がかかる子どもに根気よく対応してもらうことで、子どもの学習意欲を高めることもできた。一人ひとりに応じた支援が求められている学校現場において、学生サポートの存在は大きな力となっている。	○幼児理解・子ども理解が不十分であったり、子どもたちに対して不適切な言動が見られることがあった。しかし、それらを理解した上で、大学として、マナー講座を継続して実施していただいている。今後も大学と連携を取りながら、取り組んでいくべき事業である。
16	教育・文化・スポーツの発展と振興に関する事業 (和泉市中学生生徒会サミット)	学校教育部 指導室	教育支援室	●平成30年度は、中学生による「このルールは必要?不必要?」をテーマにグループ討議を行った。	●今年度で、8回目の開催となり、生徒会役員にとっての活動の場となっている。また、当日は大学生も含め意見交流を行い、考えを深める機会となっている。また、今回は、「ルールについて」グループ討議を行い、ルールの意味や必要性などについて意見を交流させ、自分たちの考えを深めることができた。	—
17	アメリカンフットボール部地域支援事業 (フラッグフットボール指導)	学校教育部 指導室	アメリカンフットボール部	●平成30年度は、計2回実施した。	●多くの児童たちが楽しく取り組む中で、体育の授業でも取り組みたいという声が上がっていた。また、児童が大学生とふれあう中で、スポーツを通して体力向上と異年齢交流を図ることができた。	—
18	博物館学芸員課程 博物館実習	生涯学習部 文化財振興課	経営学部 経営学科	●下記のとおり、博物館実習等を実施した。	●大学と歴史館との連携に寄与した。	—
19	桃山祭 地域連携ブース出展	生涯学習部 文化財振興課	学院史料室	●平成30年度は、歴史館の他の業務との関係や事業効果の面から、桃山祭への地域連携ブースの出展は見送った。	—	○桃山祭への出展ではなく、桃山祭期間中に、歴史館において関連イベントを実施する方向で検討中。
20	教育・文化・スポーツの発展と振興に関する事業 (学芸員課程履修学生の受け入れ及び講師派遣)	生涯学習部 久保惣記念美術館	経営学部 経営学科	●4月14日に、博物館学芸員資格過程を履修する学生を対象とした美術館の見学を実施した。美術館の学芸員が担当教員とともに展示の解説を行い、随時学生との質疑応答を行った。7月4日に、「図書館・博物館への誘い(春)」のゲスト講師として大学において講義を行った。久保惣記念美術館の紹介とともに、学芸員という仕事のやりがいやおもしろさについて実際の業務を例を挙げながら講義をした。	●大学の近くに多数の美術品を所蔵する美術館があるということを知り、これを学生に認識してもらえた。講義では東洋美術や学芸員という仕事に関心をもってもらうことができた。	○授業の中で学生に広く美術館を利用してもらえる連携事業を検討。
22	放課後子ども教室推進事業 放課後子ども教室(げんきっ子プラザ) 留守家庭児童会(なかよしクラブ)	生涯学習部 生涯学習課	教育支援室	●留守家庭児童会運営事業において、教育委員会教育センターが所管する大学における「学外研修(地域連携教育活動)」の制度を利用し、留守家庭児童会(いぶき野小)の活動補助に加わってもらった。	●留守家庭児童会に在籍する児童(小学1年生～6年生)について、学生と普段できない活発な遊び等を行うことにより、かけがえのない時間を過ごすことができた。	—
23	いずみ市民大学まちづくり学部における連携講義	生涯学習部 生涯学習課	エクステンション・センター	●いずみ市民大学(まちづくり学部・教養学部)における連携講義の調整及び実施を依頼。19名の教員の協力のもと、まちづくり学部で計10回の講義やフィールドワーク、教養学部で6講座、計61回の講義を行い、市民大学設置の目的である市民の学習意欲の醸成、活力ある地域社会の実現とまちづくり活動を担う人材の育成に協力いただいた。	●まちづくり学部では、講義とフィールドワークにおいて、講座の趣旨に沿った専門的な講義をしていただけた。教養学部においては、市民の興味に基づいた講義をしていただけた。	○受講申込者数を増加するための工夫が必要。
24	和泉シティプラザにおける 桃山学院大学インターンシップ 実習生の受け入れ 【生涯学習センター管理運営事業】	生涯学習部 生涯学習課	キャリアセンター	●生涯学習連携事業の一環で実施しているインターンシップ制度で、保健福祉センターに1名、出張所に2名の計3名の学生を受け入れた。	●学生の社会貢献・参画や職業体験の一助となっている。	—

桃山学院大学と和泉市との連携事業 結果一覧表(平成30年度)

(平成31年3月末日現在)

No.	事業名	和泉市担当	桃山学院大学担当	連携事業の結果	事業効果・成果	今後の課題等
25	ふれあいニュースポーツ教室	生涯学習部 スポーツ振興課	スポーツオフィス	<p>●ニュースポーツを各日3種類程度取り入れ、月に1回桃山学院大学サブアリーナを借用し、教室を実施した。</p> <p>4月29日 ラダーゲッターほか 5月20日 スカイクロスほか 6月18日 クロリティほか 7月22日 ディスコンほか 8月20日 ポケットボールほか 9月16日 コーンホールほか 10月21日 マグダーツほか 11月12日 ピロポロほか 12月10日 公式ワナゲほか 1月20日 ベタンクほか 2月17日 ソフトラクロスほか 3月18日 どっとボールほか</p>	●ニュースポーツを市民に普及・振興させることができた。	—
26	信太山クロスカントリー大会 IN大阪和泉	生涯学習部 スポーツ振興課	ボランティア活動支援室	<p>●全国各地の参加者(前回大会の出場者含む)に対し、大学の広報活動として大会要項、ポスター、冊子に大学名・広告を記載し、大阪府下を中心に全国各地のスポーツ施設に設置、掲示を行った。 また、第66回目を迎える信太山クロスカントリー大会IN大阪和泉の走行中のランナーの安全を確保すべく、陸上競技部のランナーボランティアにご協力いただいた。</p>	●大会運営を円滑に進行することができ、参加ランナーの安全を確保できた。	—
27	和泉市スポーツイベントへの ボランティア協力	生涯学習部 スポーツ振興課	ボランティア活動支援室	<p>●キッズスポーツフェスティバル イベント参加者受付業務等に学生ボランティアの協力を依頼したが、申込みが無かった。 ●ニュースポーツフェスタ2018 イベント参加者受付業務等に学生ボランティアの協力を依頼したが、申込みが無かった。</p>	—	—
28	法学特講 社会の中の法体験	都市デザイン部 都市政策課	法学部 法律学科	<p>●下記内容に関する講義及びグループワーク等を行った。 1. 和泉市における空家対策の取組みについて(講義)、空家関連ゲーム 2. 空家等対策特別措置法について(講義)、ワークショップ</p>	●柔軟かつ大胆な発想をもつ学生との意見交換は、画期的な施策を打ち出す上で、非常に有効であった。 また、将来建物所有者となる若年層に対し、ワークショップを行ったことは、若者に空家に関する問題意識を萌芽させ、当事者意識を醸成するなど、将来的な空家等の未然防止につながったと考える。	—
		環境産業部 農林課		<p>●下記内容に関する講義及びグループワーク等を行った。 1. 農林業の現状と課題 2. 農林業及び地域振興策の検討 3. 農林業及び地域振興案発表</p>	●本市農林業に関する理解と関心が高まった。	—
		生涯学習部 久保惣記念美術館		<p>●常設展「浮世絵の妖術とモノケ」を見学し、美術館運営の改善点を探る。</p>	●受講学生への問題提起、教材提供を行った。	—
29	こども図書館調べたい(隊)・読み聞かせたい(隊)	読書振興課 和泉市立図書館 シティプラザ図書館	社会学部 社会福祉学科	<p>●毎月第2土曜日11時から、「読み聞かせたい(隊)」として、学生が絵本や紙芝居の読み聞かせを実施。 図書館は日頃あまり交流のない年代(大学生と幼児)のふれあいの場を提供するとともに、本の選び方や探し方をサポートした。</p>	●全12回開催し、162名の参加があった。	○毎回読み聞かせをする学生が交代するので、おはなし会の企画・準備等が円滑に進まないことが多い。
30	桃山学院大学特別講義「地域課題 解決実践」	市長公室 人事課	地域連携室	<p>●学生と本市職員が協働で、本市の地域課題解決に向けたアイデアの抽出を行った。 【テーマ】介護保険制度と高齢者支援 「おたがいさまサポーター事業」について、制度や現状を協働で学び、これからの担い手となる学生からの新しいサービスの提案を行った。</p>	●市の魅力や各室・課が支抱える課題について学生と協働で調査研究ができ、新たな視点等を得ることができた他、市職員のリーダーシップ、ファシリテーション能力、課題解決力等を高める実践的な人材育成などに効果があった。	○当初は定員30名～50名で実施予定であったが、実際には9名の参加に留まった。 募集方法等について、協議・改善が必要。 職員の派遣回数検討も必要。
35	総合防災訓練 ※平成30年度 新規	市長公室 公民協働推進室 危機管理担当	施設・管財課	<p>●下記内容にて、総合防災訓練を行った。</p> <p>訓練日時:平成30年11月4日 8:30～12:00 訓練場所:桃山学院大学 訓練参加者:1,414名 訓練内容: ○屋外訓練 ・ライフライン復旧訓練 ・救助、救出、消火訓練 ・地震体験 等 ○屋内訓練 ・体感型防災アトラクション ・福祉避難所開設訓練 ○体験型訓練(スタンブラリー) ・消火器取扱 ・煙体験 ・担架作成・搬送 ・心肺蘇生法 ・炊出し訓練試食 ・防災グッズ展示、試食</p>	●住民の防災意識の高揚と知識の普及啓発並びに防災関係機関との連携強化を図ることができた。	○グラウンドと体育館を使用した為、会場間で少し距離があった為、グラウンドでの訓練参加者が少なかった。